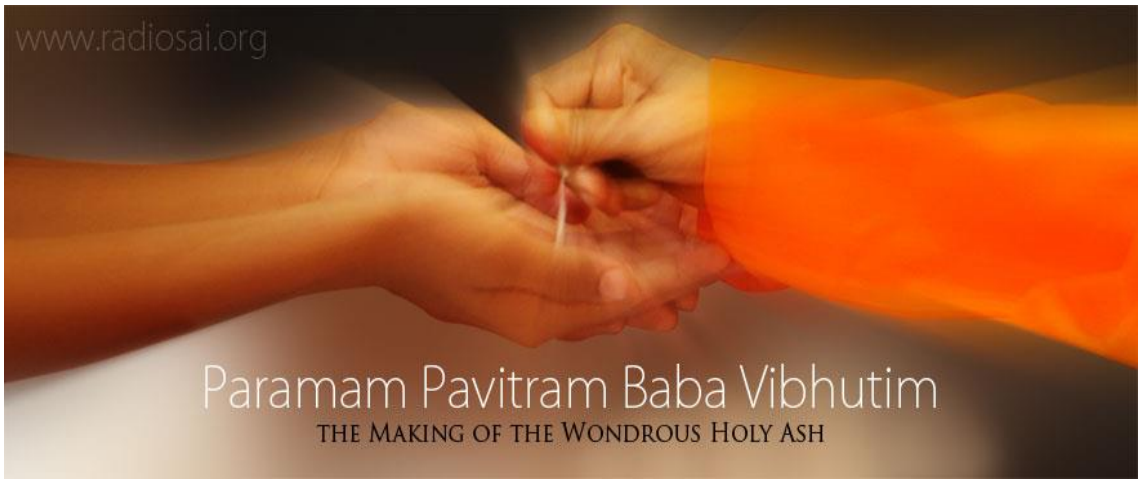



# パラマム　パヴィットラム　バーバー　ヴィブーティム

## 驚くべき神聖灰作りの舞台裏

それは人に繁栄を授けるため、ヴィブーティと名付けられています。それはバスマ（灰）、なぜならあらゆる罪を焼き尽くすから。それはバスィタム（明るいもの）、なぜなら人の霊的な輝きを増加させるから。それはクシャラム（破壊）、危険を取り除くから。それはラクシャ（保護するもの）、邪悪な霊のたくらみから身を守る鎧となるから。

太古の聖典の１つである『ブリハド・ジャーバーラ・ウパニシャッド』の中で、ヴィブーティは上記のように讃えられています。ヴィブーティは、一般的にヒンドゥー教徒たちが主として額に塗布する神聖灰を表す言葉です。ヴィブーティは、木の燃えかすとヤグニャ（火の供儀）というヴェーダの儀式で使われる乾いた牛糞の塊から作られています。ヴィブーティという語、つまり灰には、数々のレベルで数々の意味と象徴するものがあります。中でも一番重要なものは、灰はあらゆる世俗的、物質的なものの最終的な行きつく先であるということです。額にポツンと付けられたヴィブーティは、この世は儚(はかな)く一時的であり、そのため人は、与えられた時間と人生を、人間としての誕生にふさわしい探求に費やさなければならないことを強烈に思い出させてくれます。そして、この探求とは、究極の宝であり富である人間の真のアイデンティティー〔正体、自己認識〕の探求です。それは、「私は誰か？」という問いに対する答えなのです。

ヴィブーティという語もまた、まさにこの探求を意味します。神聖な言語であるサンスクリット語で、「ブーティ」はアイシュワルヤム（富、宝）を表します。ヴィブーティの「ヴィ」は、想像を絶するほど貴重なものを言います。最も素晴らしく価値のある宝とは、「２度と探し求める必要のない探求」、すなわち「人がすべてを知っている知識」です。それが、ヴィブーティを身にまとう者はそれ以外に何もまとう必要がない、とよく言われる理由です。それが、偉大なる神、シヴァが身体中にヴィブーティを塗布しているため、またの名を「ディガンバラ」（空気だけを身にまとう者）として讃えられるゆえんです。ヴィブーティを身に「まとっている」シヴァ神は、まさにその同じもので覆われていながら、すべての存在から分離しているという真理を伝えています。ヴィブーティはまた、シヴァ神に焼かれて灰にされてしまったカーマ デーヴァ（欲望の神）の物語を呼び起こします。その物語のメッセージは、最終的に、欲望は粉じん（ヴィブーティ）に帰する、というものです。

## ヴィブーティの力

私がヴィブーティの力について、ちょっとした、しかし忘れられない物語を聞いたのは子供の時でした。見るからに神の帰依者らしい、輝くヴィブーティの点を額に塗り付けた旅人が、森を通り抜けようとしていました。森の中で、彼は呪われた井戸に遭遇しました。その井戸は、なんと地獄へ続く井戸だったのです。旅人は井戸から発せられるうめき声や叫び声を聞きました。好奇心に駆られた彼は、井戸の方へ歩いて行き、中をのぞき込みました。その途端、うめき声や叫び声はぴたりと止んだのです。

私たちはしばしば額に輝く小さな点の素晴らしさに無邪気にも無知です。

不思議に思いながら、旅人がまた元来た道を歩き出すと、またしても叫び声が始まりました。そこで、旅人はもう一度井戸の方へ行って中をのぞいてみましたが、中はしーんと静まりかえっています。そんなことが何度か続きました。すっかり混乱してしまった旅人は、井戸の方へ歩み寄って、尋ねました。

「おーい！　下に誰かいるのかい？」　返事はありません。この井戸にはお化けが出るのだろうと決め込んだ旅人が、そこを立ち去ろうとした時、声が聞こえました。
「旅のお方、どうか行かないでください。この井戸は地獄へ続く井戸なのです。私たちは皆、ここで苦しい思いをしています。あなたが居てくださることが私たちの慰めなのです」
驚いた旅人は尋ねました。
「どういうわけで、私が居ることが慰めになるんだね？ 私は聖者でも救世主でもないのだよ」
「旅のお方、あなたがこの井戸をのぞき見するたびに、あなたの額からヴィブーティの粉が中に落ちてくるのです！ それが私たちにはとても大きな慰めになるのです」

それ以来、この物語は私の心の中にずっと残っています。そして、私は心の底からヴィブーティを敬い、崇めているのです。

## パラマム　パヴィットラム　バーバー　ヴィブーティム

バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイ・ババの帰依者にとって、ヴィブーティは特別な興味を引く、意義深いものでもあります。まだ子供の頃から、ババはアヴァターであると宣言なさって以来、ずっと虚空からヴィブーティを物質化して、あらゆる病気の処方をしたり、世俗的、霊的なあらゆる種類の祝福を授けたりしてきました。ババが与えて下さったヴィブーティは、それが創られたさまざまな目的に見合った無数の種類があります。時に、それは固いキューブ状の形をしていることもありますが、多くの場合は粉状です。さらさらしたもの、ざらざらしたもの、またパサパサしたフレーク状の粉です。芳しい香りがしていたり、刺激の強い香りだったり、塩気があったり、甘かったり、まるっきり味が無い時もあります。色は、白かったり、黒みがかっていたり、その中間のさまざまな色合いだったりします。
時に、ババは手をくるくる回して、ヴィブーティを容器ともども物質化されることがあります。ババの伝記作家のN.カスツーリ教授は、そのような話を記録するために、“The wave of the hand 〔手のひらの一振り〕”と題された１章をまるごと使って、ババのヴィブーティに関する話を書いています。

事実、スワミはヴィブーティを、サイの帰依者たちのためにある種の「身分証明書」にまで高めているのです。ババは美しい声で歌う詩句の１節の中で、こう宣言なさっています。

| | |
|---|---|
| *Kolanuku Kaluvaye Shringaaramu* | *蓮は湖沼の飾り* |
| *Aakashamunaku　Chandrude Shringaaramu* | *月は大空の飾り* |
| *Samudramunaku Alale Shringaaramu* | *波は大海の飾り* |
| *Swami Bhaktulaku　Vibhutiye Shringaaramu* | *ヴィブーティはスワミの帰依者の飾り* |

ですから、ダシャラー祭やマハーシヴァラートリのような何らかのお祭りの最中に、スワミが大量のヴィブーティを物質化して配るのは何も驚くことではありません。この下の動画で、そのような素晴らしい出来事の１つ、ダシャラー祭のヴィジャヤ・ダシャミーの日にババがヴィブーティを物質化して分け与える姿を垣間見ることができます。

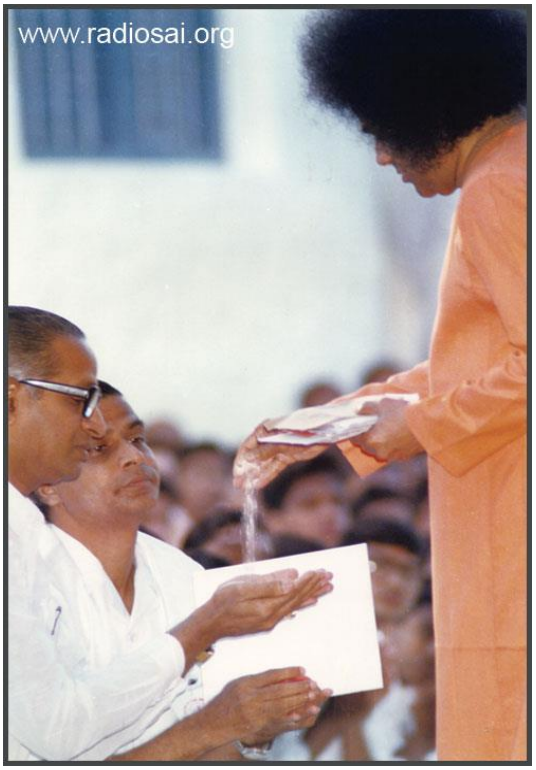
ここをクリック→　https://youtu.be/lnCwebH0gyk

ヴィブーティはこんにち、バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイ・ババの名の下に行われるあらゆる集会（地域的であれ、国際的であれ）において、マハープラサーダ

ム（導師から祝福の印としてすべての帰依者に与えられる恵み深い贈りもの）となっています。

## ヴィブーティの「ヒズ」ストーリーを知るようになる

プラシャーンティ・ニラヤムのアシュラムが建設されて以来、ずっとプッタパルティを訪れる人々は増え続けています。プッタパルティは、世界のあらゆる宗教や地域の人々にとって聖地巡礼の中心地になりました。灰のように普遍的なものが、この至高の平安の普遍的住居で帰依者が求めるプラサードになったのは、全くもってふさわしいことです。幸運な人々は、神の手のひらの一振りで物質化されたヴィブーティをもらうことができます。しかし、誰もが神聖灰の一つまみをババの祝福の印として、自分用と同時に家用にも持ち帰りたいと望んでいました。スワミが直々にヴィブーティの作り方の手順を設けられたのはそんな時でした。伝説となっているのは、スワミご自身が牛糞を集めてきれいにし、乾燥させ、燃やして灰になさったという話です。



最初に作られたヴィブーティは直接神の手から作られた。

それらの灰はふるいにかけられ、細かいパウダー状にされて、プッタパルティで製造された最初のヴィブーティの版となりました。故郷の町へ帰る前に、ヴィブーティを手に入れたいと願うアシュラムを訪れたすべての人のために、この神聖灰の小さな紙のパッケージが入手可能になりました。

1980 年代のある日のことです。帰依者たちの快適な生活のため、協同雑貨店の経営を託された人物であるキアルダース氏は、ある要望を持ってスワミのもとを訪れました。キアルダース氏は、帰依者たちはそれぞれの国や故郷の町に大量のヴィブーティを持ち帰りたいと願っている、とスワミに伝えました。今、作られているわずかな量のヴィブーティでは、その需要の一部さえ満たすのに十分ではありませんでした。
そこで彼は、同じ品質のヴィブーティを非常に安価で売ることができるよう、入念なヴィブーティの製造システムを立ち上げるに当たり、スワミの祝福を求めたのです。

愛というサイの使命を果たすため、今までのやり方を変える時がやってきました。そして、バガヴァン ババは慈悲深くも、その冒険的事業を許可してくださったのです。

ここで、この記事の 2 つの目的を説明するために、少し回り道をする必要があります。多くの人は、アシュラムで購入するヴィブーティ（1 袋 100g 入：2 ルピー）はすべてババが物質化されたもので、パケットに入れて販売するために巨大な倉庫に保管されている、と誤解しいています。もちろん、宇宙が神によって創造されたのと同じ意味合いでは、それらのヴィブーティはスワミがお創りになったものとも言えます。あなたと私が神によって創られたように。しかし、ビッグバンが宇宙創造のための神の道具であり、両親が私たちをこの世に送りこむ神の道具であるのと同様に、神聖灰を生じさせる神の道具的なプロセスというものもあるのです。

この記事の第一の目的は、ヴィブーティができる工程のノウハウと詳細について、読者の皆さんにお知らせすることです。第二の目的は、どうやってヴィブーティは作られるのか、という質問に詳しく答えることです。

1986 年にスワミがヴィブーティの製造と販売に同意なさって以来、ずっと生灰（窯から出たままの洗っていない灰）は、タミル・ナードゥ州パラ二の製造卸売業者から苦労して調達されています。この生灰は、主に穀物殻の灰と微量の（1％以下）牛糞灰から構成されています。この灰が 50ｋｇずつ袋詰めされて、プラシャーンティ・ニラヤムに届きます。ここで、愛の労働が始まるのです。4 種類の香料が、スワミからある女性に授けられた割合で、ヴィブーティの中に混ぜられます。その女性の名前はブッジャンマと言います。

作業中のヴィブーティと、袋詰めが完了したヴィブーティを隔てる製造倉庫内の壁。

キアルダース氏がスワミのもとへ持ち込んだ何十種類もの香料の中から、2 種類の固形香料と、2 種類の液体香料が選ばれました。スワミはブッジャンマを呼び、液体香料をそれぞれ大さじ数杯ずつと、固形香料をそれぞれ大さじ数杯ずつ、パラ二から届いたまだ香り付けしていないヴィブーティ 40 袋に混ぜるように指示なさいました。（正確な分量をお伝えするのは差し控えておきます。正確な製法は、コカ・コーラの製法が企業秘密であるように秘密なのです。ヴィブーティの製法は口頭でのみ伝えられ、どこにも書き記されていません）　こうして合計数グラムの香料から、2000kg のヴィブーティが作られます。この「数グラム」という言い方は間違いではありません。なぜなら今日でさえ、香料を足すのに同じスプーンが使われているからです。分量を計るのに電子秤は使われていないのです。

完璧な製法のもと、さまざまな香料を計るため今日まで使用されている祝福されたスプーン。

ブッジャンマは、定められた通りの割合でヴィブーティに香料を混ぜるという神聖な任務を託されました。2、3 名の男性作業員に仕事を手伝ってもらい、彼女は誠実に、良心的に、日々の霊性修行であるヴィブーティ作りに励んだものでした。混ぜる作業は完璧にこなされなければならず、それだけで 4、5 時間を要するものでした。ひとたび混ぜる作業が完成しても、ヴィブーティの小袋を帰依者のもとへ届ける準備ができるまでには骨の折れる包装作業が待っていました。

ある日、キアルダース氏と数人の者たちが、ブッジャンマにヴィブーティの香りが足りないのではないかと言いました。もう少し香料を足せば良いのでしょうか？　この提案について一生懸命考えていると、ババが彼女の夢に現れました。夢の中で、ババは定められた割合を増やしてはいけないと厳しく警告なさいました。その一方で、

ババは彼女に、40 袋分のヴィブーティに足す固形香料の分量を、実際に元の分量のちょうど半分にまで減らすようにおっしゃったのです。神の指示された変更が導入され、それ以来ずっとそのままの割合が守られてきています。

## ヴィブーティ作りの工程のノウハウ（Now-How 今―いかにして）

ババが認め、与えてくださったヴィブーティの製造方法についてもっと知りたくなった私は、プラシャーンティ・ニラヤムの中にあるシュリ・サティヤ・サイ・バクタ・サハヤック・サングという巨大なショッピングセンターに足を運びました。1 階の隅のほうに 100 g に包装された神聖灰が巨大なトレイに並べられ、置かれていました。私は、プラシャーンティ・ニラヤムでヴィブーティ作りを担当するドライスワミー氏を訪ねました。そこで彼が語ってくれた詳細な話は、驚くべきものでした。

あなたは、プラシャーンティ・ニラヤムから出ていくヴィブーティの 1 年間の総量がどれくらいあるか推測できますか？　これを読むのをやめて、真剣に、目を閉じてだいたいの見積もりをしてみてください。私の見積もりでは、たぶん 1 年間で 5,000 ｋｇのヴィブーティを売り上げている可能性があるのではないかと思っていました。実際の数字を聞いて、私は唖然としました。平均して 100 メートルトンのヴィブーティが毎年出ていくのです。固体にして 100,000 ｋｇです！　その上、2010 年にはこの数字は 128 メートルトンを打ち立てました！　そして、それだけの量のヴィブーティが、すべて平均 20 名の女性ボランティア・スタッフによって作られているのです！

お金は得られずとも、帰依者たちの無限の祝福と好意を得たプラシャーンティ・ニラヤムの売店の一角！

この事実に触発されて、ヴィブーティの製造場所として現在使われているシェッド〔倉庫〕を訪れたいという私の気持ちが高まったのは自然の成り行きでした。アシュラムの北側の宿泊施設の裏にあるその倉庫に近づいただけで、神聖灰の芳しい香りが漂ってきて、身心を満たしました。私はとてもエネルギーが充たされたように感じました。倉庫に入ると、約 15～20 人の女性たちが、静かに、そしてテキパキとヴィブーティを包装する作業に励んでいるのが見えました。そのうちの 1 人か 2 人の女性が、ドア越しに立っている訪問者の姿を見ようと頭を上げました。他の女性たちは私がいることにも気づかない様子でした。私はカメラを構え、フラッシュの大きな音で私が入って来たことを伝えました。すると、2、3 人が私の方を見たので、大きな声で尋ねました。

「サンク・ラーマニヤンマさんとお話できますか？」

「私なら、ここにいますよ」と、黄色いヴィブーティのパッケージに封をしている 50 代前半の女性が答えました。私は彼女の方へ歩み寄り、自己紹介しました。私がヴィブーティの話を知りたくて来たということを聞いて、彼女の目は輝きました。「何をお話しすればよいのでしょう？ あなたは来るのが 2 年遅すぎたわ！ブッジャンマは高齢のために故郷に帰ってしまいました。彼女なら、確実に何百ものヴィブーティ作りに関する話をすることができたでしょうに！」

機械から出てきた、混ぜる工程を終えたヴィブーティの山は、黄色いビニールパッケージに包装されて、トレイに納められる。

「つまり、2012 年まではブッジャンマさんがヴィブーティを混ぜていたのですか？」

「そうです！ヴィブーティの需要がとても高くなった時に機械が導入されたのです。ですがその時でさえ、ヴィブーティに混ぜる香料の割合を維持していたのはブッジャ

ンマでした。彼女が 2、3 ヶ月の休暇を取ると言って、私にやり方を教えてくれたのです。彼女が戻ってこないとわかったのは、後になってからです」

ラーマニヤンマさんは、ヴィブーティ作りの工程がどのようなものか詳細に説明してくれました。生灰を積んだトラックが、ひと月に１回か２回、パラ二からやってきて、シェッド〔倉庫〕の荷物下ろし場に大きな袋が下ろされます。ラーマニヤンマさんがたらいにいっぱいの生灰を満たし、スプーンで計った割合でそれぞれの香料を足していきます。たらいの中のヴィブーティは、聖歌を歌ったり、マントラを唱えたりしながら（しかし、決まった形はない）、隅々まで混ぜ合わせられます。この“濃縮”ヴィブーティが、それから 40 袋の小袋に均等に分配されます。過去 40 年間、このヴィブーティ製造施設で働いてきたラトナカールという名の作業員が、その後、大袋いっぱいに入った生ヴィブーティをミキシング・マシーン〔混合機〕に入れます。これに、小袋に入った濃縮ヴィブーティを１袋足します。そして１時間、機械がヴィブーティを混ぜ合わせてから取り出すのです。これで、ヴィブーティは完成です。このヴィブーティが巨大な容器に入れられて、機械が置かれている場所と壁で隔てられた包装場所〔パッキングエリア〕に運ばれるのです。

## ヴィブーティの包装の進化

約 100 g のヴィブーティを黄色いパケット〔小袋〕に詰めるのは、10 人ほどの熟練した女性たちです。そこで詰められたヴィブーティは、“はかり係”に渡されます。“はかり係”は、それぞれのパケットを天秤に乗せて、ヴィブーティを足したり減らしたりしながらきっちり合計 100 g になるようにします。“はかり係”の女性たちは、次にその袋を“密封係”に渡します。“密封係”は、電動ハンドルを押してパケットを密封します。これで、神のプラサーダムを帰依者に届ける準備が整うのです。

スワミの祝福の最もよく知られた印が、世界の隅々のすべての帰依者の家まで確実に届くようにと、作業に勤しんでいる神の手伝いをする人々。

しかしながら、この包装工程もこの20年の間に進化してきました。1986年、最初にヴィブーティが包まれたパッケージは黄色い紙で覆われていました。

それから、ヴィブーティが濡れてしまうのを防ぐため、紙パッケージは黄色い透明なビニールシートで覆われました。この上から細い白紐でパッケージを縛るのです。この入念な包装は、大きな労働力を要するものでした。

ヴィブーティを混合する作業だけでなく、電動プレスの密封作業もするラーマニヤンマさん　（後方のブルーのサリーの女性）。

1994年、スワミはバンガロールのホワイトフィールドにあるブリンダーヴァン・アシュラムに滞在し、8ヶ月近くを過ごされました。必然的に、その時期はプッタパルティにいる人々よりもブリンダーヴァンにいる人々の方がずっと多くなりました。スワミの許可を得て、ルチル・デサイ氏（ブリンダーヴァン・キャンパスの教職員であり、現在もブリンダーヴァンの生協の売店を営んでいる）が、ブリンダーヴァン・アシュラムでもヴィブーティの製造を始めたのはその頃でした。

これは、帰依者からの増え続けるヴィブーティの需要を満たすために不可欠でした。デサイ氏は大変苦労してブッジャンマから製造方法を教えてもらいました。ブッジャンマは、本当にスワミがバンガロールでのヴィブーティ作りを開始するよう指示なさったことを確認してから、初めてその製造方法を教えてくれたのでした。数時間のうちに1,000個以上売れる日もあり、製造工程を変えても高まる需要を満たすことはできそうもありませんでした。製造にあたっての障害は包装工程にありました。帰依者たちからの高まる需要を満たすために生産性を上げ、この障害を取り除く目的で、デサイ氏はスワミのもとを訪れました。

デサイ氏はスワミに既存の包装方法について説明し、新たな包装方法について祝福を求めました。加熱した電動プレスで一瞬にして閉じられる、印刷されたビニールのカバーを調達したのです。スワミは、カバーに適したデザインを選び、カバーに印刷すべきことについても指示を与られました。こうして、再びスワミの許可と祝福を得て、こんにち私たちが見ているモダンな包装が実現したのです。

## 愛という真の労働

神の御名を唱えながら、静かに偉大な奉仕に従事している無私無欲のボランティアたち。(左)

世界中から集まったリキタ・ジャパ・ノートは、ページでヴィブーティを包むためプラシャーンティへ送られてくる。(右)

ラーマニヤンマさんと彼女の献身的なボランティア・チームは、この地球上で最も素晴らしい宝物―ヴィブーティを包装できるなんてとても祝福されている！と思っています。かつて、週末も休暇もなしに毎日行われる１日 5-6 時間のその重労働に対し、給料を払おうという話が出たことがありました。しかし、彼女たちはにべもなく断ったそうです。「これは私たちがスワミのために、望んでしていることなのです。どうしてそのことにお金などもらえるでしょうか？」

同じ話が、ブリンダーヴァンのブーティア夫人率いるボランティア・チーム内でもありました。神の名が記された紙に包まれ、神の御名を唱えてエネルギー・チャージされ、神の御名の栄光を広める準備が整いました。これらのチームとは別に、PRO オフィスやセキュリティー事務所やアコモデーション事務所などでも、アシュラムを訪れるすべての帰依者のためにプラサーダムとして利用できるヴィブーティを作るチームが必要になってきました。この別のチームは、80 代の女性も幾人か含まれたかなり年配の女性たちで構成されており、バジャンの最中や後に座ったままヴィブーティを包装します。大規模な製造や包装作業に携わっているボランティアたちと同様、彼女たちも自分たちの努力に対するババの愛だけを求めているのです。プラシャーンティ・ニラヤムにあるバジャン・ホールの裏では、静かにヴィブーティの小包装を作る作業をしている彼女たちを見ることができます。それは 10 グラムずつ包装されていて、リキタ・

ナマ・ジャパ・サーダナというノートのページから作られています。このノートには、サーダナ（霊性修行）の一環として帰依者たちが何千回も繰り返し書いた神の御名が刻まれています。いったんノートが完成すると、それはアシュラムに持ち込まれ、神聖灰を包んで皆のもとへ届ける紙に姿を変えるのです。

これが、手短なヴィブーティ作りについてのお話です。多くの詳細がここで語られましたが、１つ抜けていたことがあります。それは忘れられていたからではありません。むしろあまりにも皆がわかりすぎていて、当たり前に受け取られていたからです。そうです。ヴィブーティの最も大切な要素、それは、そこに常に含まれている、バガヴァン・ババの無限の愛と恩寵です！

ヴィブーティ作りに関する話にはもっともっと多くの体験談や物語が含まれていて、その栄光のすべてを捉えるのに１つの記事では決して十分ではありません。しかし、もし読者の皆さんがこれらの最も心躍る話を知りたいと願うなら、最も良い方法は、あなたがプラシャーンティ・ニラヤムやブリンダーヴァンを訪れた時、ヴィブーティを包装している献身的なボランティア・チームの中に入っていくことです。そうすれば、ウィンウィンの〔双方とも満足する〕状況になるでしょう。あなたは心躍る話を聞けて、マハープラサーダムを作る神聖な工程の一員になるチャンスを得られます。ヴィブーティを作っているボランティア・チームは、世界的に高まりつつあるヴィブーティの需要を満たすため、生産性を上げるのに喉から手が出るほど欲しい手助けが得られるというわけです。

この愛の労働に自らを捧げたいと願われる方は、どうぞプラシャーンティ・ニラヤム・アシュラムの PRO オフィス（ムラリー氏）に連絡をお取りください。ホワイトフィード・アシュラムで同様のことを望まれる方は、ルチル・デサイ氏に連絡をお取りください。

*パラマム　パヴィットラム　バーバー　ヴィブーティム*
*パラマム　ヴィチットラム　リーラー　ヴィブーティム*
*パラマールタ　イシタールタ　モークシャ　プラダーナム*
*バーバー　ヴィブーティム　イダマーシラヤーミ*

*神の御業の神聖灰は　この世は夢と悟らせたもう*
*至高の清き英知の光　永遠の至福くださる力*
*サティヤ　サイ　ババのヴィブーティ　無限の愛*

アラヴィンド・バーラスッブラマンニャ